

令和7年度香川大学大学院修了式 学長告辞（2026.3.24）

本日、修士の学位を授与される217名の皆さん、修士（専門職）の学位を授与される40名の皆さん、そして博士の学位を授与される36名の皆さん、大学院修了、誠におめでとうございます。ここに令和7年度香川大学大学院の修了式を挙行できますことは、皆さんの指導教員はもとより、香川大学教職員一同にとりましても大きな喜びであります。皆さんを支えて来られたご家族や関係者の皆様におかれましても感慨ひとしおと拝察いたします。

大学院の目的は、自ら選択した専門分野の学びを、研究活動を通じて深めるとともに、研究成果によって当該分野の学問の発展に寄与し、ひいては社会に貢献することだと思えます。また、国家試験等の受験資格を得ることのできる専攻・コースにあっては、修了後、当該分野のスペシャリストとして社会に貢献することも期待されています。

皆さんは学修・研究に日々精進され、成果を挙げるとともに、勉学以外でもさまざまな経験を積むことにより、人間的にも成長し、社会が期待するポテンシャルを持って大学院修了を迎えられたに違いありません。指導教員を始めとして、在学中に知り合った教員、友人、先輩後輩たちとのネットワークはこれからも貴重な財産となることでしょう。

研究生活に一旦区切りをつける方にとっても、博士後期課程へ進学するなどして研究生活を継続する方にとっても、今日は新たな旅立ちの日です。どうか自信と誇りを持って、これからの人生の目標に向かって前進してください。 社会人入学の皆さんにおかれましては、仕事や家庭と勉学を両立させるのにさぞかし御苦勞があったものと推察いたします。大学院で得られた学修成果や研究業績、新たな気付き、そして培った人的ネットワークが今後のキャリアや人生設計に活かされることをお祈りします。

皆さんが本日取得された「修士」あるいは「博士」という学位は、単に学歴を表すものではなく、当該専門分野の研究を实践したことの証であり、到達した学問の高みを保証するものです。グローバル化が進む今日（こんにち）、Master's degree や Ph.D. 等として国際的にも通用する学位の取得は、いっそう重視されるようになっていきます。皆さんは、研究活動を通じて物事を客観的に見つめる習慣を身に付け、論理的思考を養い、仮説を科学的に検証する経験を積まれました。昨今、SNS などの情報ネットワークの普及により社会には情報が氾濫しており、そのなかにはフェイクニュースや科学的根拠の乏しい情報も数多く含まれています。皆さんは、情報を鵜呑みにすることなく、批判的に吟味し、その真偽や有用性を自ら判断する能力を獲得できたのではないかと思います。

大学院修了後、皆さんを待ち受ける社会では、さまざまな地球規模の、あるいは地域の課題が山積しています。①人口の減少、②人工知能（AI）の発達、③気候変動、④国際情勢の激変、などが、互いに絡み合いながら同時に進行しているという点で、私たちはまさに歴史の転換点に居ると言えます。これらの課題の多くは、私たちが豊かな生活を追求し続けてきた結果生じたものと考えられることから、皆で英知を結集して、解決に向けて取り組まねばなりません。

社会構造が急激に変化する中、私たちは、複雑で予測しがたく、問題の本質が見えにくい時代に生きています。その中で求められている能力とは、既成概念にとらわれず、柔軟に発想することにより、新たな課題を発見し、その解決法を考え、そして解決に向かって実際に行動する能力です。皆さんには、新しい視点や、鋭い感性、変化に対する適応力や行動力をもって、リーダーシップを発揮し、社会変革の担い手になることを大いに期待しています。

また、社会環境の大きな変化に対応して、さまざまな方向から知恵を出し合い、社会課題を解決に導くためには、Diversity & Inclusion、すなわち「多様性と包摂」の推進がますます重要になってきています。性別・国籍・年齢・障害の有無などの多様性を受け入れ、多様な個性や価値観、考え方を

等しく尊重し、皆が自分らしく活躍できる共生社会の実現に向けて、いっそうの取組みが急がれています。皆さんも、この多様性が持つ可能性と社会における実践について考えていただければと思います。

わが国が将来にわたって持続的に発展するためには、今なお続く東京一極集中ではなく、地方分散型社会を実現することが最良の選択肢であるとの提言がなされています。香川大学でも「持続可能な地方分散型社会の実現に貢献する人材の育成と研究の推進」をビジョンに掲げており、香川県と周辺地域で社会と経済の発展に貢献することは、本学の最も重要なミッションです。香川県内に留まる方はもちろんのこと、それ以外の地で活躍される方も、どうか香川を第2の故郷（ふるさと）と思い、将来にわたって繋がりを持ち続け、地域の発展にご協力いただければ幸いです。

我が国では、研究活動における国際競争力の低下が喫緊の課題となっており、基礎研究の充実と博士人材の活躍が大いに期待されています。香川大学でも、博士後期課程の整備を積極的に進めており、一昨年4月に、「創発科学研究科」に博士後期課程を開設したのに続き、この4月から、医学系研究科臨床心理学専攻に新しい博士後期課程を開設します。

本日、修士課程を修了して社会人となる皆さんも、社会人としての経験を通じて具体的な問題意識を持つことがあれば是非、博士後期課程への進学をご検討ください。働きながら学ぶことも可能です。また、社会人の学び直しやリスクリングのニーズの高まりを受け、短期集中的に特定のテーマについて学ぶ「リカレント専門講座」も開いており、今後いっそう充実させていく予定です。人生百年時代と言われる長寿社会において、香川大学は、生涯にわたってさまざまに活用していただける「地域の知の拠点」であり続けることを目指しています。

最後に、修了生の皆様の前途を祝し、そして修了生とそのご家族、関係者の皆様方のますますのご健勝とご多幸をお祈りして、告辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

令和8年3月24日

国立大学法人香川大学長

上田 夏生